

立命館大学環太平洋文明研究センター第7回研究会

2014年11月28日(金)18:15-19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館 2F 研究会室 2

日本列島最古の遺跡をもとめて

上峯篤史（立命館大学非常勤講師：考古学）

2000年11月5日に発覚した旧石器発掘捏造事件は、日本考古学の信頼性をおとしめ、前期旧石器時代の研究をリセットさせました。それから14年、捏造事件の教訓は現在の研究にどのように活かされているのでしょうか？そして日本列島の人類史はどこまでさかのぼるのでしょうか？発表者自身の研究成果もまじえながら、日本列島の前期旧石器研究の到達点を紹介します。



発掘調査で見つかった約11万年前の地面
(島根県砂原遺跡)



日本列島最古？の石器
(島根県板津遺跡)

立命館大学環太平洋文明研究センターは昨年4月に新設された新しい研究組織です。「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」のが目的です。人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。

定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

立命館大学環太平洋研究センターHP：<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/>